

草井区地元説明会質問等要旨

- 日 時 平成25年6月1日(土) 午後7時5分～午後9時34分(2時間29分)
- 場 所 学習等供用施設 草井会館
- 出席者 草井区住民102名(101世帯)
- 市役所 市長、副市長、教育長、生活産業部長、広域ごみ処理施設建設対策室長始め
対策室員5名
- 準備室 尾張北部地域ごみ焼却処理広域化第1小ブロック会議準備室長始め準備室員
2名

質 問 ・ 意 見 等	回 答
<p>・平成24年11月の第1小ブロック会議で江南市は受け入れたいと言っているが、他市町は、現時点で候補地は犬山であると言っている。しかし、3か月後の平成25年2月になって、江南市の提案が了承されたことは、まったく納得がいかない。今までの報道を見る限り、他の市町が犬山の候補地でまとまっていたのに、江南市長が強引に引っ張ってきた感じがする。</p>	<p>・平成22年5月25日に候補地が犬山市の池野地区に決定したが、お地元の池野地区5町内会の他に、隣接する小牧市、岩倉市、小牧岩倉衛生組合の行政と議会、小牧市の野口区・大山区が反対であった。犬山市議会もあそこはふさわしくないという立場であった。そうした中、砕石業を営んでいる地権者の方から「小牧と犬山の地元が反対では土地の提供を再考させていただきたい。」という文書を出され、八方ふさがりの状況になった。今日に至るまで3年間経過したが、犬山の候補地では進展がなく、これ以上事業の進捗が遅れてはいけないということで、こう着状態を打開するため、江南市が昨年10月2日の第1小ブロック会議で候補地の受入を表明したものである。</p>
<p>・犬山市がギブアップする前に、江南市が候補地の受入を表明している。江南市だけで進めてきたやり方に対し、市民が不信感を抱いているので、今後十分に説明責任を果たしていただきたい。</p>	<p>・平成24年10月2日から平成25年2月4日まで、4回の首長会議の議論を踏まえて今に至っている。中般若町北浦地内の候補地については、地元同意が得られた時点で、第1小ブロックの建設地とすることが決められており、皆様方のご了解をいただくために、こうした説明会を開催しているところである。</p>

質 問 ・ 意 見 等	回 答
<p>・施設は最新ですばらしいと思うが、収集車の臭いに対しては、どのような対策をするのか。</p>	<p>・パッカー車の性能も向上されている。まずは車両の整備と洗車を徹底させる。ごみを降ろした後、敷地外に出る前に洗車を行わせている施設もあり、今後そうした対応も検討していく。</p>
<p>・地元住民の同意を取りたいのであれば、もう少し前向きな説明が必要だ。例えば、煙突からの排ガスの測定だけを環境アセスメントと言っているのか。排ガスがどの範囲まで拡散するかを事前に予測するのか。施設ができてから、どういった測定をするのか。行政側からそのような説明があってから住民の意見を聴取するというなら分かるが、地元の皆さんに相談して、すべてこれから決めるというやり方はいない。</p>	<p>・第1小ブロック会議の候補地として決定した後でしか環境アセスメントには入れない。今回のごみ処理施設の建設にあたっては、排ガスの拡散範囲の事前予測などを含めた環境アセスメントの実施が定められている。</p>
<p>・粗大ごみの処理施設ができることを、今日まで知らなかった。また、2市2町のごみを持ってこられる方もみえるので、しっかりと周知してほしい。</p>	<p>・ごみ処理施設は2市2町で計画をしているものである。粗大ごみ処理施設については焼却施設と一体のものであり、江南丹羽環境管理組合や犬山市の施設でも併設しており、新たに加わるような施設ではない。</p>
<p>・現在の1市2町のごみだけでなく、犬山市のごみまで受け入れるのはなぜか。</p>	<p>・ごみ処理については、広域で処理するという国の指針があり、愛知県は国の指針に基づき、県内を13ブロックに分けた。この地域は尾張北部地域で、小牧市と岩倉市を含めた4市2町で1つのブロックを構成していたが、それが頓挫し、今回に限り、江南市、犬山市、大口町、扶桑町の第1小ブロックと、小牧市と岩倉市の第2小ブロックの2施設の建設が認められている。</p>

質問・意見等	回答
<p>・犬山市の候補地と同じように頓挫する状況になった場合、ごみ処理は、今の施設で引き続きやっていくのか。</p>	<p>・今の施設（大口町）を抱えるお地元の方には、新施設ができる平成30年度までの稼働との思いがある。平成30年度の稼働は非常に難しいと認識しているが頑張っていきたい。現時点で、この候補地が頓挫することは考えていない。</p>
<p>・ごみ処理施設を造りたいということであれば、当然、市から地域振興として、どこまでのことを考えているという提案があつてしかるべきだ。皆さんの要望を受けながら考えるということでは、話が前後して先に進まないのではないのか。</p>	<p>・具体的な地域振興策については、他の自治体の例で申し上げると、余熱を利用した健康増進施設や浴場、環境学習の拠点施設、通学路の整備、防犯灯、カーブミラー、ガードレールなどの交通安全設備の整備などが考えられる。しかしながら、地域振興策については江南市だけで決められないため、今後、お地元の皆さんの意見をお伺いした上で、第1小ブロック会議の中で検討していく。</p>
<p>・江南市にとって、ここに造るメリットは何か。</p>	<p>・江南市にとって、最大のメリットは運搬費である。犬山の候補地に持っていく場合は、2市2町全体で、運搬費が2倍強になる。</p>
<p>・地元とはどこを指しているのか。 ・隣接する扶桑の住民のことを考慮せず、江南市側だけで進めていけるのか。</p>	<p>・中般若区と、そこに隣接する草井区と般若区、市境に隣接する扶桑町の方も地元という認識をもって説明をしていく。</p>
<p>・地元同意の基準はどこにあるのか、何を持って地元同意を得たと判断するのか。</p>	<p>・現時点では、どういうものを指して地元同意というのか決まっていない。多数のお地元の方のご了承が得られた時点で、第1小ブロック会議で決定していく。</p>
<p>・江南市が地元同意を得たと判断し、第1小ブロック会議に持ち上げる判断基準を伺いたい。</p>	<p>・江南市が地元同意の定義を持っている訳ではない。江南市だけの判断ではなく、第1小ブロック会議の中で同意の判断基準を検討し、それでもって判断することになる。</p>

質 問 ・ 意 見 等	回 答
<p>・地元の同意については、説明会を繰り返す中で、大体、理解が得られたと判断していただくということで良いと思う。ごみ処理施設を他所に持っていきたいというのは当たり前前の気持ちである。しかし、なんでも他所へもって行けといった考えでは進まない。ごみ処理は大口町、し尿処理は岩倉市、火葬場は犬山市でお願いをしているので、人口から考えると、江南市が責任を果たさなければならないという事は理解できる。江南市の中から5候補地を比較検討した結果、中般若町北浦地区になったという説明も理解できる。技術革新が進んでいるので、環境への配慮は行政の方できちんに対応してもらえと思う。本日、こうした資料を出して説明会を行った以上、行政は責任を持って進めていくことになる。やはり、江南市民としての責任を果たしていく必要がある。</p>	<p>・ご意見として伺っておく。</p>